

ご 注 意

地盤の許容応力度及び基礎杭の許容支持力は、国土交通大臣の定める方法によって地盤調査を行い、その結果に基づき定めなければならないと規定されています。(建築基準法施行令第93条)

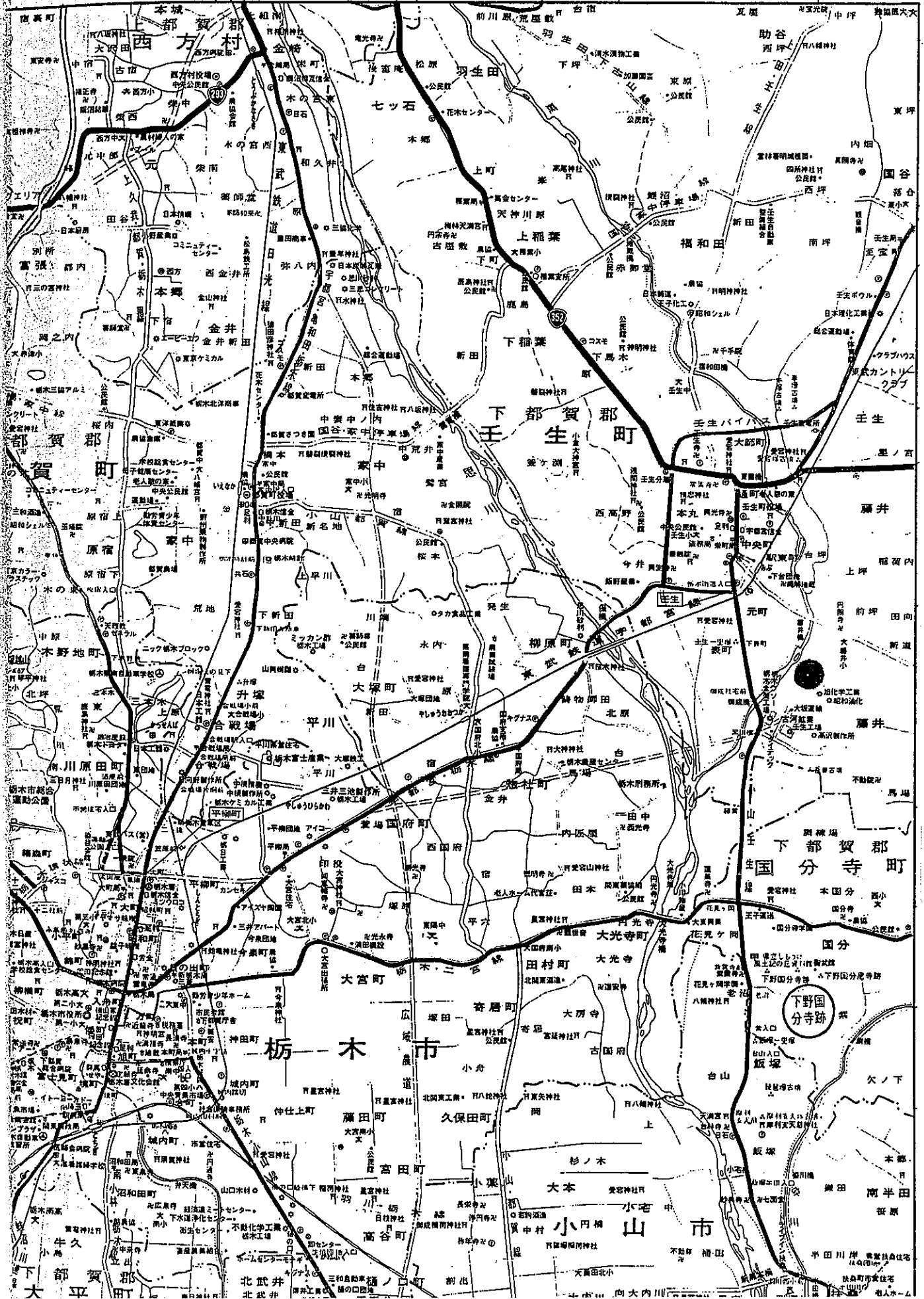
地盤構成並びに各地層の性状は、場所ごとに千差万別であることから、敷地（状況においてはその周辺も含めて）の地盤調査によって地盤構成等を的確に把握し、その結果に基づいて建物をどの地層に支持させるかを決定する必要があります。

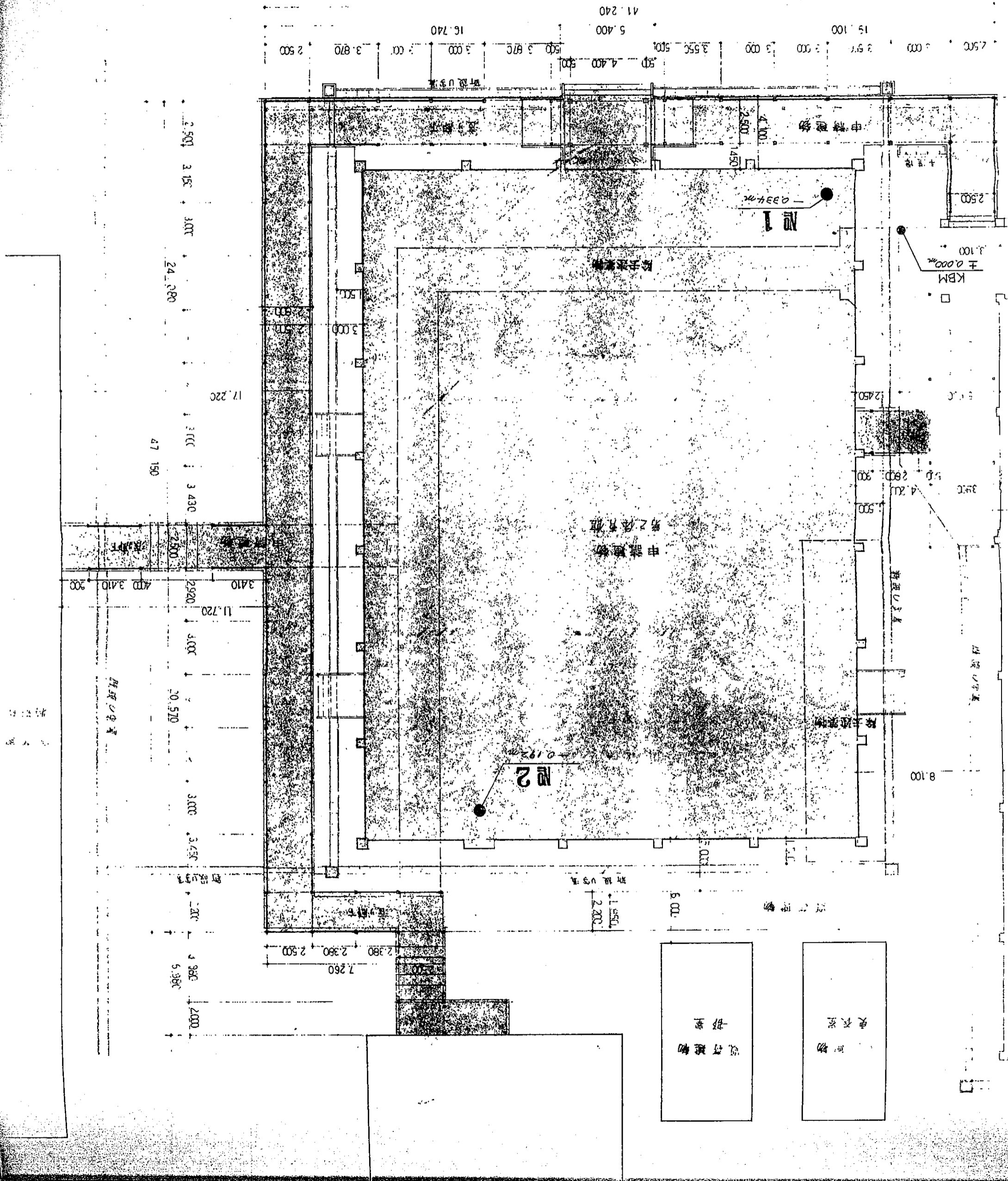
したがって、本資料は計画段階における参考資料としてご活用ください。

栃木県土木部建築課

案内図

○.....調査地点





設計建物
形式

実況
建物

調査名・調査地点 壬生高校第二体育館 新築工事地質調査 標高 0.334 m 調査年月日 平成12年12月25日 平成12年12月26日
 ボーリング孔: No. 1 孔内水位 GL-8.40 m 調査担当者

標尺 m	標高 m	深さ m	層厚 m	現場観察記録				標準貫入試験						試料採取							
				土質記号	土質名	色調	記事	深さ m	打撃回数 貫入量 cm	10 cm ごとの打撃回数			N 値						試料番号	採取方法	
										10 cm	20 cm	30 cm	0	10	20	30	40	50			60
1	0.75	0.75		埋土	暗茶褐		上層 0.30m φ20~80% 程度の土混入 ローム系の粘性土主成分 腐植物、スコリア混入	1.15	5	2	2	1									
2	2.00	1.25		ローム	茶褐		腐植物、スコリア混入 粘性強い	1.46	1	1											
3	2.90				橙灰		粒径 φ1~6% 団粒状 スコリア混入	2.15	35	35											
4	3.80	1.80		軽石	黄橙灰		スコリア、浮石多量混入 腐植物、砂分若干混入 少量のシルト性帯びる	2.50	2	1	1										
5								3.15	32	21	11										
6	5.90	2.10		凝灰質ローム	暗茶灰			3.47	2	1	1										
7							最大粒径 φ80% 前後 φ30~40% 程度の円角砂多量混入	4.15	31	20	11										
8	7.70	1.80		砂	暗黄灰		マトリックスは砂分主体	4.46	4	1	2	1									
9							最大粒径 φ150% 前後 φ30~60% 程度の円角砂多量混入	5.15	33	11	15	7									
10							GL-9.80~10.15m GL-15.00~15.40m 砂分挟有	5.48	50	16	34										
11							GL-10.15m 付近に φ5~80% 主体	6.15	18	16	8										
12							局部的に含水多い	6.33	50	14	28	8									
13							マトリックスは砂分及び粘性土	7.15	26	14	28	6									
14								7.41	37	11	15	11									
15	15.45			粘土混り砂	暗黄褐灰			8.15	30	11	15	11									
16								8.45	50	17	17	8									
17								9.15	28	17	17	8									
18								9.43	44	12	14	18									
19								10.15	30	12	14	18									
20								10.45	50	12	22	7									
21								11.15	27	16	29	2									
22								11.42	50	13	18	7									
23								12.15	22	12	26	2									
24								12.37	50	12	9	9									
25								13.15	27	13	18	7									
26								13.42	50	12	26	2									
27								14.15	22	12	26	2									
28								14.37	30	12	9	9									
29								15.15	30	12	9	9									
30								15.45													

備考: 試料採取方法の記号
 ● デニソン型サンプラー
 ● シンウォールサンプラー
 ○ 貫入試験用サンプラー
 ⊕ フォイルサンプラー
 × その他

王生高校第二体育館 調査地点 新築工事地質調査

標高 0.1192 m

ボーリング孔: № 2 孔内水位 G.L. 2.20 m 調査担当者

調査年月日 平成12年6月2日 01:20

標高	高さ	厚	現場	観察	記	録	深さ	N	値	採取	方法
m	m	m	土質	色	事		10cm	10	20	30	cm
			土質	調			打撃				採取
			土質	調			回数				採取
0.30	0.30	0.40	埋	土	暗		5				
0.70	0.40	0.40	土	土	埋						
			土	土	埋						
2.10	1.40		茶	茶	埋	1.47	2	1	1	1	
			茶	茶	埋						
3.70	1.60		軽	石	茶	8.54	2	1	1	1	
			軽	石	茶						
5.80	2.10		凝	灰	口	5.15	2	2	2	2	
			凝	灰	口						
6.50	0.70		砂	暗	灰	5.47	40	30	12	20	
			砂	暗	灰						
7.15	7.15					7.15	27	50	17	18	
13.25	6.75		粘	土	埋	11.15	30	49	17	18	
			粘	土	埋						
15.30	2.05		砂	黄	灰	14.45	30	40	6	11	
			砂	黄	灰						
15.45	0.15					15.15	30	40	6	11	

試験採取方法の記号
 ● ソノキールソフラー
 ⊕ ソノキールソフラー
 ○ 貫入試験用ソフラー
 × その他